

I 今回のテーマ

子どもに習い事をさせますか？

———100 人のママに聞きました———

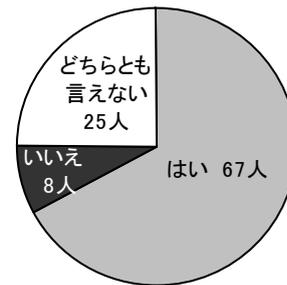
少子化が進む一方で、子ども向けの通信教育、英語、スイミング、ピアノなどの習い事はますます盛んになっています。実際にママたちは、子どもの習い事についてどのように考え、どのような習い事に関心が高いのでしょうか。生後 0 か月から 6 歳の子どもの持つママを対象に、最近の「習い事情」を調査しました。

7 割弱のママが子どもにとって「習い事は必要」

「子どもにとって、英語やピアノなどの習い事は必要だと思いますか」とたずねたところ、100 人中 67 人が「はい」と答え、「いいえ」と答えた人は 8 人でした（図 1）。

習い事が必要だと思う理由として「自分自身も子どものころ習い事をしてきたから」（11 人）、「小さいときからやったほうが身につくから」（10 人）、「子どもの可能性が広がるから」（7 人）、「習い事を通して、親子ともに友達ができるから」（6 人）という声が多くあがりました。

図1 英語やピアノなどの習い事は必要だと思いますか？(N=100)



頭も体も「バランスよく育てたい」のが親心

現在、子どもに習い事をさせているのは 100 人中 29 人で（図 2）、その 5 割強にあたる 16 人は、1 歳になる前に習い事を始めていました（図 3）。

どのような習い事をしているのかをたずねると、29 人中 18 人が通信教育をあげ、うち 12 人は 1 歳になる前に始めていました。次いで、英語、ピアノ（各 3 人）、スイミング、リトミック、体操（各 2 人）、幼児教室、絵画（各 1 人）の順でした。

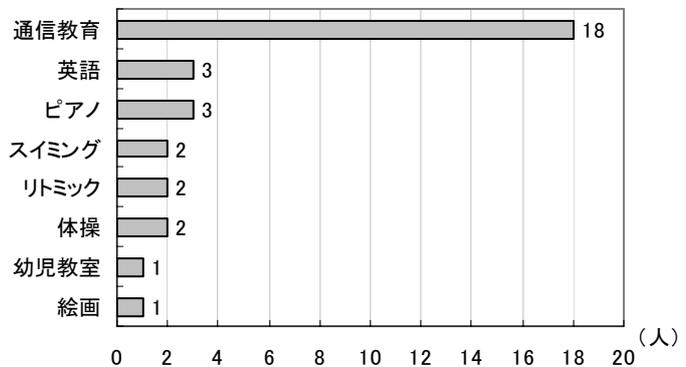
通信教育の人気の高い理由は、「子どもの月齢に合わせた教材が毎月送られてきて、楽しく学習やしつけができる」「費用も手ごろ」といったところにあるようです。

さらに、現在習い事をさせているママに、他にも習わせたい事はあるかと質問したところ、29 人中 25 人が「ある」と答えました。ちなみに、現在 2 つ以上の習い事をさせているママは 3 人でした。

「ある」と答えた 25 人のママ全員が、ピアノとスイミング、あるいは英語と体操というように、異なるジャンルの習い事をさせたいと考えていて、「文武両道にバランスよく、全ての面で人並み以上の子どもにしたい」「できるだけ多くのチャンスの場を提供して、可能性を広げたい」など、子どもへの期待が大きいことがうかがえます。

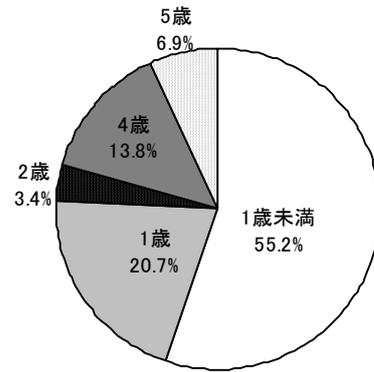
図2 子どもに習い事をさせていますか？(N=100)  
(はい:29人 いいえ:71人)

はい:29人の内訳(複数回答)



一方で、ピアノと絵画を習わせているママからは「習い事が増えると送り迎えが大変でイライラすることもある。練習をさせるためにガミガミ叱ることも増える」という声も聞かれ、習い事が増えるにつれて時間に追われる親子の姿が垣間見えました。

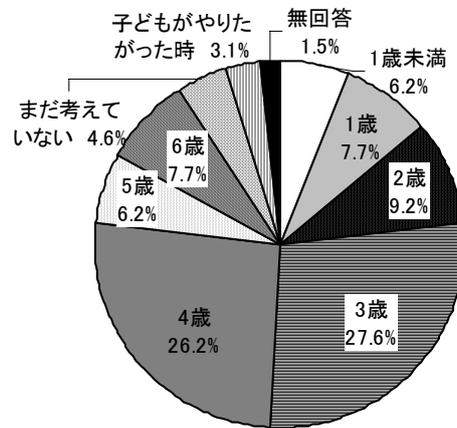
図3 何歳から習い事を始めましたか？(N=29)



**習い事は3歳から、人気はスイミングと英語**

次に、子どもに習い事をさせていない71人に、「今後習い事をさせたいか」また、習わせるとすれば「何歳から始めたいか」とたずねたところ、9割を超える65人が「習い事をさせたい」と答え、そのうち半数以上の人が、「3歳か4歳から始めさせたい」と考えていることがわかりました(図4)。

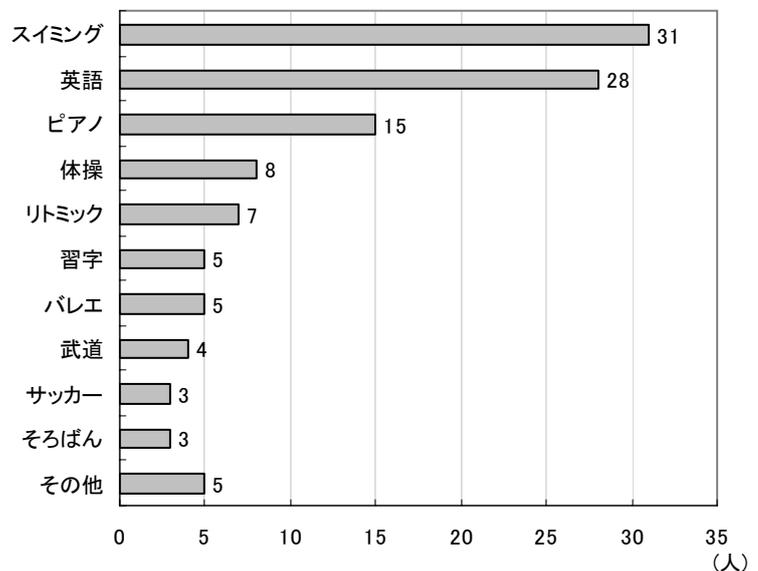
図4 何歳から始めさせたいですか？(N=65)



「習い事は3歳で始めるのがいいと本で読んだ」「英語は小さい頃から始めないと発音が身につかない」「スイミングなどで身体を動かすことは、脳の発達につながる」と、幼児期からの教育を重視する声が多く聞かれました。

また、子どもにさせたい習い事で人気が高いのはスイミングで、約半数の人が習わせたいと考えています(図5)。理由としては、「スイミングで体力をつけさせたい」と、子どもの体力づくりをあげています。

図5 習い事をさせるなら何をさせたいですか？(N=65、複数回答)



次いで英語の28人(43.1%)、ピアノの15人(23.1%)となっています。

英語については「国際化が進み、ますます英語が必要になる」「これからは英語が話せて当然」、小学校の英語教育実施を踏まえて「将来落ちこぼれないように」など、「子どもの将来を思えば必須」と考えているママが多いようです。

また男女ともに、空手や剣道などの武道をさせて、強い精神力をはぐくみたいという声や、女の子にフィギュアスケートをさせて、母娘で「華麗な世界を体験したい」と、ママの夢を託す声も聞かれました。

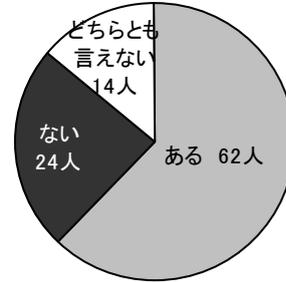
## ママ以上に習い事に熱心なパパも

最後に、「夫は、子どもの習い事や教育に関心があるか」とたずねたところ、100人中62人が「ある」と答えました（図6）。

「子どもはまだ3ヵ月だが、夫は今から英語を聴かせようといっている」「私より熱心で、上の子ども夫の考えでいくつも習い事をしている」「夫は育児雑誌も自分から読む。子どもは1歳だが、スイミングスクールのパンフレットをもらってきた」というように、ママ以上に熱心なパパも少なくありません。

また、「パパは自分の趣味のテニスやゴルフを習わせて、将来は一緒にプレーすることを今から楽しみにしている」という声もありました。

図6 夫は子どもの習い事や教育に関心がありますか？(N=100)



エンゼル110番では1995年に同様のアンケート(エンゼル110番レポートvol.8「早期教育は必要ですか」)を実施しています。そこでは、早期教育が「必要」と答えた人は3割弱で、「不必要」と答えた人が約6割でした。後者の理由は「子どもは遊ぶのが一番」「幼いうちは教育よりしつけを大切にしたい」というものでした。

しかし、今回の調査では、12年前に比べて、子どもの習い事について肯定的に考える人が増えています。

その理由のひとつとしては、親世代もまた、「自分自身も子どものころ習い事をしてきたから」というように、習い事をするのが当たり前と考える人が多くなっていることがあげられます。

また、少子化が進み、防犯面の問題にも神経質にならざるをえない今、かつてのように地域のなかで友達を作ったり、遊びを通して体力を養い人間関係を学ぶことが難しくなっているという現実もあるようです。「習い事をさせることで、同年齢の子どもと交流させたい」「親子ともども友達を作りたい」といったママたちの言葉からもうかがえるように、習い事の場に、そうした役割を求めざるをえないというのが現状と言えるでしょう。

## [HOT VOICE]

\*アンケートにお答えいただいたおひとりおひとりの声を集めました。

### 子どもの習い事。どう考えますか？

#### ●肯定派

<子どもも私と同じように>

- ・小さい時に習ったことが大人になって役立つことは多いし、人生の選択肢が広がる。私もピアノ、作曲、声楽、習字、剣道、英語、絵画を習っていました。(28歳、7ヵ月)
- ・私が英語を話せるので子どもにも習わせたい。英語ができれば外国人とコミュニケーションがとれるし、異文化にも触れられると思う。(26歳、3ヵ月)

<オールマイティな子どもに>

- ・小学校に上がったならネイティブな英語を習わせたい。暗算ができると便利なのでそろばんも必要かな。運動も何かさせたいし、字がうまいと得をすることもあるので習字も習わせたいですね。(24歳、1ヵ月)

<自分の身を守れる子に>

- ・夫は健康面を考えると運動系をさせたいと思っています。最近は物騒だし、女の子だから、身を守れるように空手など武道系もいいかなと言っています。(33歳、8ヵ月)

<習い事は人間教育の場>

- ・いろいろな人の中で教えてもらうことは大事だし、親が教えられないことを他の人に教えてもらうこともいい経験になると思う。(39歳、7ヵ月)
- ・人とコミュニケーションをとる機会になるし、挑戦力も養うことができる。(24歳、1歳3ヵ月)
- ・夫はスポーツをさせて、協調性を養ったり上下関係を学ばせたいと言っています。(36歳、1歳4ヵ月)

#### ●否定派

<習い事は必要と思わない>

- ・子どもにとっては、自由に外で遊ぶことのほうが大事。(29歳、1歳5ヵ月)
- ・心の発達のほうが大事。子どもの思いやりを育てたい。また、英語より日本語を学ぶことが先だと思う。(29歳、10ヵ月)

## 調査の概要

- 対象 : 「エンゼル110番」にお電話をいただいた子育て中のママ100人
- 調査方法 : 電話による聞き取り調査
- 調査期間 : 平成18年11月6日～12月7日
- 対象者の属性 : 「母親の年齢」 20代…35人、30代…64人、40代…1人  
「子どもの年齢」 6ヵ月未満…33人、1歳未満…31人、1～2歳代…26人、  
3歳以上…10人  
「子どもの性別」 男の子…43人、女の子…57人  
「居住地」 首都圏…66人、首都圏以外…34人